



新潟県 支部 報

”81年7月10日

No. 11 (夏)

(財) 日本野鳥の会新潟県支部

私のフィールド

小千谷の四季

小千谷市 中山 正 則

我がフィールドは、小千谷市内にある信濃川の河川敷地内です。場所は小千谷市の東西を結ぶ旭橋の下流 500 m から始まり、およそ 1,500 m ぐらい下った間のところ。この間に出現した野鳥を観察し、これを記録しています。10年ほど前から必要に応じ時おり出かけていましたが、本腰を入れ始めたのが昭和52年の9月からで、以来年に150回平均で出かけています。

環境は典型的な信濃川の中流域で、中洲が発達し、河原の相観もよく長い年月を経て土石が程よく堆積しています。河面に接したところにはカワヤナギやネコヤナギの低木林が見られます。堰堤とヤナギ林の間には、高木のニセアカシヤやオニグルミの林が発達しています。現在のところまで珍鳥ヤツガシラをはじめ、88種の野鳥を観察しています。それでは四季を追って紹介したいと思います。



春はヤナギの芽吹きがたいへん美しく、心を和ませてくれます。足元を見れば、ヒメオドリコソウやツボスミレ、オオタチツボスミレなどが咲き乱れ、まさに百花繚乱です。シロヤナギにはコムクドリの夫婦が留まり、「キュルルルー」と鳴いています。コアジサシが目の前を通り過ぎ、ホバリングをやった後、

川面にダイビングをこころみ、ウグイの稚魚をうまくキャッチします。ホオジロの巣の側を通ると、夫婦ともいら立った様子で私の方をにらみつけています。ほら、ツバメが川面を翔び交っています。なんとどのかななのでしょう。



陽ざしがジリジリ照りつける中をジャコウアゲハが午後のひとときを楽しんでいます。

川辺のヨシ原ではオオヨシキリが「ケケシ、ケケシ、ギョシギョシ」と、かまびすしく鳴いています。でもいったいに夏は鳥の活動はおとなしく、アブラゼミのうだるような声の方が目立ちます。それでもキジの親子は、餌探しに懸命です。私の存在などまるで忘れたかのように……………。



夜でもないのにエンマコオロギが「コロ、コロ」と鳴いています。この頃は、繁殖を終



(ヤツガシラ：瀬尾 澄子)

えたコサギが数羽の群れとなって川原に集まります。オチアユをねらった釣人がやはり川原に多くなるのもこの頃です。この釣人とコサギが織りなす光景は、何ともいえず素晴らしく、初秋の風物詩となっています。「あっあれはケリではないか、川原の石ころの上で悠然と羽を休めているではないか。」また、コアジサシに代ってこの地方では比較的に珍しいアジサシが見られます。川面を何千羽と群がり飛びかっていたショウドウツバメは、10月の中旬を界にしてそれ以降は全く見られなくなります。



小千谷の冬は積雪量が多く、鳥達がこの期間を過ごすのはたいへんなことなのです。カ

シラダカを初めホオジロ、カワラヒワなどは、地面が冠雪すると雪のない温暖な地方へ移行してしまいます。代りに更に寒さが厳しい地方から南下してくるのがカモ類などです。このカモを餌として追ってくる鳥があります。巨大な猛禽、オジロワシです。中州の雪上で羽を休めるいっぽう、ホオジロガモやカワイサなどを横目でにらんでいます。カモ達がスキを見せるとパッと襲いかゝりますが、なかなか思うようには捕食はできないようです。タゲリが「パタッ、パタッ」と緩慢に直飛する中をハマシギの群れがサッと通り抜けま

す。冬風は頬に吹きつけますが、私の心の中は、鳥達に接している満足感で満たされています。

私と日本野鳥の会

見附市 高井和佳子

こんにちは。はじめまして。私は入会してやっと1年たったばかりの小学6年生の女の子です。私の入会のきっかけはこんなことからです。小さいころから動物がとても大好きな私は、4年前のある日、十姉妹を家の人に何度も何度もたのんでとうとう買ってもらいました。それからというもの、鳥好き和佳子とよばれ、クラスの中でも私の鳥好きは有名になってしまいました。そんなある日、父が、日本野鳥の会出版の「山野の鳥」を買ってきてくれました。それをみて、野鳥についてとても興味を持ち、もっと野鳥について知りたくなり入会しました。

5年生の夏休みには、庭にえさ台をつけてみました。するとスズメがたくさんきたので宿題の自由研究には「庭のスズメの観察記録」をテーマに、観察してみました。

がんばったおかげでクラスの代表になり、校内科学研究発表会、高学年の部で発表しま

した。

観察してわからないことや、こまったことがおきたときには日本野鳥の会の資料を見たことを友だちに話すと、「私も入会したい。」と言う人が何人かいます。あいまいな人、とてもしんけんに、私の入会の説明を聞く人、など、さまざまですが、みんな「会費がもう少し安かったらなあ。」とあきらめてしまうのです。そこがとても残念です。私の場合は、マンガを買うのをがまんしたり、家の人のかんぱなどで会費をはらっています。

残念なことに探鳥会には一度も出席していません。ですが、いい機会を見つけてぜひ参加したいと思っています。

そのときは先ばいのみなさん、まだまだ何も知らない私ですので、いろいろ教えてください。その時を楽しみに待っています。ではさようなら。

(事務局注 来年度より本部会費に、ジュニア会員、家族会員の制度が作られ、会費の割引きが決定しています。お友達もきっと沢山入って下さるでしょう。)

粟島に渡来した貴重種の観察例

—新発田市 小野島 学—



1. タカサゴクロサギ

1981年5月1日から5日の6日間、環境庁委託の粟島2級ステーションでの標識調査を中心として、鳥類の観察を行い、わが国及び新潟県における、数種の貴重種の渡来を確認したので紹介する。

粟島は、村上市から約20km離れた周囲約19km、面積約950haの孤島で、以前から旅鳥の休憩地として注目され、ムネアカタヒバリ、カラスバト、キガシラセキレイなど貴重な種の渡来が確認されている。また島西側の岩壁は、オオミズナギドリ、ウミネコ、ウミウの繁殖地として有名で、同地域一帯は天然記念物に指定されている。

次に今回観察された貴重種をいくつか述べる。

1. タカサゴクロサギ *Dupietor flavicollis*

中国、台湾などに生息し、ササゴイ属に類似する種で、日本初記録である。全身茶黒色で喉から頸にかけて、両側に美ハブ色の線がはしり、胸には縦斑がある。全長477mm。(写真1)

2. キマユホオジロ *Emberiza chrysophrys*

主にシベリアで繁殖し、冬期はウスリー、

朝鮮、中国に渡る。日本では迷鳥として、対馬、男女群島で観察されているが、新潟県でも、柏崎市で標識調査の際に1羽が捕獲されている。黄色のマユが特徴的である。

(写真2)



2. キマユホオジロ

3. シマアオジ *Emberiza aureola*

夏鳥として、北海道の草原では、ごく普通に観察されるが、新潟県では初記録である。♂は顔面が黒く、腹部の黄色と、胸部の茶色の線が印象的である。(写真3)

4. シロハラホオジロ *Emberiza tristrami*

シベリア東部で繁殖し、日本では旅鳥として対馬、山口県角島、石川県舩倉島で観察されている。新潟県でも、1974年10月、新潟市五十嵐二の町の新潟大学構内で拾得されて



3. シマアオジ

おり、今回は2番目の記録である。カシラダカに似るが、白い頭中央線が特徴的である。(写真4)

5. シマノジコ *Emberiza rutila*

シベリア東部、ウスリー、朝鮮で繁殖し、冬期台湾、インドシナへ渡る。日本へは春の渡りの時期に対馬、舩倉島で観察されている。新潟県では初記録である(常山氏観察)。

これらの他に、コホオアカ、シベリアアオジ、ムネアカタヒバリ、ムギマキなど珍しい種が認められ、粟島が渡り鳥にとって、重要な位置を示していることがうかがえる。今後の観察に期待したい。

(同行者) 風間辰夫、曾我信男、田中秀夫
常山秀夫、古川八重子、宮越一俊、吉川吉枝、渡辺央

(参考文献)

- 1) 清棲幸保、1975: 日本鳥類大図鑑Ⅰ、講談社東京
- 2) 千葉晃、小林浩二、1981: 新潟市に渡来した



4. シロハラホオジロ

シロハラホオジロ、新潟県生物教育研究会誌第16号

- 3) 新潟県野鳥愛護会、1973: 粟島の鳥類、新潟県生活環境局、環境対策課
- 4) 本間義治監修、1981: 新潟県鳥類図鑑、新潟日報事業社
- 5) 本間隆平ら、1979: キガシラセキレイ、野鳥新潟、第43号、新潟県野鳥愛護会
- 6) 山階芳麿、1980: 日本の鳥類と其生態、第二巻、出版 科学総合研究所

(写真撮影 小野島 学)

定 点 観 察

西蒲分水町 星野 元郎

留鳥に限らず渡り鳥でも毎年同じ場所にやって来て営巣したり、そこを生活圏としている種類は数多くいるが、それらは案外同一個体であるかも知れない。そんなことを期待したわけでもないが、同一場所での観察ノートから2~3例を紹介します。

※冬のゴイサギ S53年から今年で4年間、11月中旬に来て3月中旬には去る2羽のゴイサギがいる。そのねぐらがこともあろうに民家の玄関先の、高さ3m位の樁の繁みの中である。留鳥だから一年中いてもよさそうなものを前記のように冬期だけしか姿を見せない。人の出入りにはそしらぬ顔をしていて、夕刻暗くなるときまって、クァークァーとなき

がら採食地の方向へ飛んでゆくのである。

※分水堤防の桜並木に毎年決まって1羽のカッコウが来てなく(1羽というのは観察時の数)。S50年5月13日、51年5月13日、52年5月10日、53年5月11日、54年5月13日、55年5月16日。このように毎年ほぼ同じ月日に同一場所で初なきをきくことが出来る。

※窓辺に来てなくサンコウチョウ 少し古いノートであるが、1965年~1969年のサンコウチョウの初なき初認のメモによると、そのころ私の家は国上山麓の杉木立の中にあって、いながらにして窓辺から多くの鳥を見ることが出来た。木々の緑もさわやかな5月になると、ホイホイの声が待ちどろしくなる。1965年が5月6日、'66~'68年が5月10日、'69年が5月16日となっている。このころにカッコウ、ヨタカ、ホトトギス、フクロウなどの初なきもきいている。初認の日の違がいは私のものぐさのせいであろうが、同一場所に

いてもこれだけ定期的に確認出来ることはただに驚異である。

今年は例年になく大雪で、山の小鳥も餌不足で里に降りて来て木の芽が格好の餌になったことだろうが、分水の桜並木も近年になくちらほらとまばらにしか咲かなかった。高田も村松も、桜のつぼみはみんなウソの被害のように新聞に書かれているが、ウソだけが犯鳥のように言われては大迷惑、ウソの個体数からもウソだけではなく、厳しい冬を過ごす鳥にとって必要悪であり、花見客は花よりダンゴときめつけてもらいたい。

(西蒲原郡分水町桜町)



ゴイサギ 撮影 星野元郎

56. 3. 13 分水町 野中才

ホームグラントのすすめ

上越市 山本 明

ホームグラントは、近くの山、池、川原、海岸、または住んでいる地域一帯など、自分の好きな場所のどこでもよいのです。朝食前に気軽に行ける所でもよいし、少し離れたところで日曜や休日に行ける所でもよいでしょう。野鳥をはじめ自然の豊かな所なら最適です。

ビギナーの人は、そこで出会う野鳥をまず覚えましょう。双眼鏡で姿を見て、図鑑と首っ引きで覚えます。その鳥が鳴いて（さえずって）いれば、鳴き声も一しよに覚えられます。でもなかなか姿を見せない鳥もいます。出来るだけ探鳥会などに参加して、鳴き声からも覚えましょう。でも鳥の種類によっては鳴き声に変化があるので注意しましょう。姿から図鑑を見てもよくわからないときは、形、色彩、大きさ、動作など出来るだけくわしくメモしておき、あとでよく知っている人にききます。テープレコーダー（普通のものでよい）を利用し、近くで鳴いている声を録音しておいて、あとでベテランの人にきくのも一法です。こうしてわかった鳥、始めて出会っ

た鳥など年月日と共に記録しておきます。

次にだんだん野外での識別ができるようになってきたら、そのホームグラントで年間を通じた観察をして記録しましょう。姿または鳴き声から、確実に識別された鳥名と羽数を記録します。年月日の他に天候、時間なども。識別できなかったものは「不明種」として、不確実なものは鳥名の後に？をつけて羽数を記録しておきます。数日おきか週一度、または十日おきとか月一度など定期的に観察すればよいのですが、不定期でもかまいません。こうしたことをしばらく続けてゆくと、いろいろなことが分ってきて、さらに興味や関心が湧いてきます。その記録は一つのデータとして後で役立ってくるのです。

こうしたことを県内在住の多くの会員がおこなったとすると、そのデータの集積から、さまざまなことが明らかになってくるものと思われます。例えば、ある鳥について、ある時期の観察結果を出しあうことにより、その鳥のその時期での県内の分布状態が大づかみ出来るのではないかと思います。またある鳥

の移動期の観察例を出しあうことにより、その鳥が局所的にどんな所を通過して移動してゆくかが、だんだんわかってくるのではないかと思います。あるいはまた、何年間かの観察記録の結果から、そのホームグラウンドでは、鳥の種類と数が増えているか減っているか、おおよその見当がつけられるでしょう。

こうしてみると、一人一人の記録はささいなものであっても、多くの人の集積となると大変重要なものとなり、自然保護の上でも大きな力を発揮する資料ともなるのです。

信濃川探鳥会

南蒲栄村 渡辺 央

5月からの探鳥会シーズンにさきがけて、4月19日に行われた長岡市の信濃川探鳥会は総勢28名の参加者であった。雪どけ間もない信濃川の河川敷は、まだヤナギの芽吹きがはじまったばかりの淋しい風景であったが、北へ帰る前の冬鳥や、早くも南から渡ってきた夏鳥のコムクドリ、繁殖の準備に入ったゴイサギやコサギなど、鳥の種類は予想以上に多く、合計44種が確認された。

アトリの大群、ホオジロハクセキレイの観察、ホオアカやアオジの囀りなど、結構楽しめた探鳥会であった。

(確認した鳥)

ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、トビ、コチドリ、ケリ、ツルシギ、イソシギ、タシギ、オオジシギ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、(ホオジロハクセキレイ)、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、クロツグミ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、アトリ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。<44種>

各地の鳥

◎上越ブロック

4月12日ミソサザイ 糸魚川市原山 5月
1日カワセミ 5月2日ヤマセミ 5月21日
ヒクイナ(声) 以上青海町田海の池 5月
9日カワセミ 糸魚川市月不見池 (観察者
小野絹子)

3月29日ホオアカ 頸城村中増田 5月17
日ムネアカタヒバリ5 チュウシャクシギ
110± ヒバリシギ タカブシギ ツルシギ
キアシシギ アオアシシギ アカエリヒレア
シシギ オオジシギ タシギ トウネン ム
ナグロ ケリ タゲリ 以上頸城村長崎の田
5月12日 アカエリヒレアシシギ40± ヨシ
ゴイ6~7羽はいつもいます。以上高田城跡
公園 (観察者 古川 弘)

◎中越ブロック

4月18日エリマキシギ7 タカブシギ2
タシギ4 ツルシギ80± ハマシギ50±
(観察者 渡辺 央) 4月26日エリマキシ
ギ3 (白いエリマキになりかけ) コアオアシ
シギ1 タマシギ(声) (観察者 常山秀夫)
以上南蒲中之島村のハス田

4月13日クロツグミ 塩沢町仙石 4月14
日オシドリ♂♀ 4月27日ヒヨドリ群30羽
4月29日サンショウクイ 5月3日ゴイサギ
以上六日町上空 5月3日コアジサシ アオ
サギ 5月4日カシラダカの囀りさかん 5
月16日オオヨシキリ 以上魚野川 5月5日
サンショウクイ ヤブサメ オオルリ キビ
タキ サシバ ヤマセミ 5月16日カツコウ
初認、5月18日ホトトギス初認 以上六日町
畔地 5月19日コサメビタキ 六日町 (観
察者 木下 弘)

6月2日シマセンニュウ、オオヨシキリ
コヨシキリ 柏崎市悪田 6月6日トラツグ

ミ ブッポウソウ カワセミ ヤマセミ ア
オバズクなど43種 鯖石ダム探鳥会 (観察
者 小林成光)

◎下越ブロック

5月3日オオヨシキリ 5月30日オオジシ
ギ3 キョウジョシギ チゴモズ バン 以
上瓢湖 (観察者 中田牧彦)

4月24日オオマシコ♀1 4月29日シマア
ジ1 新潟市太夫浜 5月29日ユリカモメ非
生殖羽成島1 アジサシ コアジサシ ウミ
ネコ カッコウ オオヨシキリ バン 以上
鳥屋野潟 (観察者 常山秀夫)

4月26日タマシギ♀1 シマアジ 太夫浜
5月31日オオバン オオハクチョウ セツカ

ヨシゴイ 以上阿賀野川河口 6月7日ショ
ウドウツバメ 300± 福島潟 (観察者
千葉 晃)

4月12日センダイムシクイ 14日オオルリ
18日キビタキ 22日ヤブサメ 29日ツツドリ
30日サンショウクイ 5月13日オオヨシキリ
以上初認 3月31日カワアイサ 4月8日オ
シドリ 12日アリスイ 16日アオジ 19日ノ
ビタキ 24日ノゴマ 26日エゾムシクイ 30
日クロツグミ 5月2日アカハラ 5日アオ
バズク 10日コルリ サンコウチョウ ノジ
コ 13日マヒワ30± 14日ミゾゴイ フクロ
ウ 15日カッコウ 20日コメボソムシクイ
21日ホトトギス 27日シマセンニュウ 6月
8日アカショウビン 9日アオバト 以上
東蒲津川町 (観察者 斉藤久夫)

新 入 会 員

下記の方が新しく会員となりました。
探鳥会でお会いしましょう。鳥だより、
写真など気がるに事務局まで送って下さい。

- ・181 高橋正良 950-21新潟市五十嵐一の町
6765-7 0252 (60) 0201
- ・182 鈴木俊史 959-21北蒲原郡金田町2-
11 02506 (2) 7824 学生
- ・183 小林郁雄 943-01上越市稲田1の4の
18
- ・184 石黒一郎 941 糸魚川市西海上羽生
1315 02555 (2) 5457
- ・185 高橋直子 940 長岡市千場2丁目4
の22 長友荘8号室
- ・186 斉藤 仁 949-66南魚沼郡六日町482
-2 今重荘は号
- ・187 中田牧彦 959-21北蒲原郡水原町中央
町2-13-21 中学生
- ・188 中沢克彦 950-21新潟市五十嵐二の町
8471-1 サトミ荘内
- ・189 佐久間百合 950-21新潟市寺尾 692番

地 八代栄荘17号 学生

- ・190 村山 暁 942-14東頸城郡松之山町坂
下219
- ・191 土田和美 955 三条市新光 380-14
- ・192 池田麻紀子 950-21新潟市五十嵐中島
2250-2 池田一夫様方
- ・193 宮島順一郎 954 見附市学校町1の10
の6
- ・194 高橋雅男 959-26北蒲原郡中条町小舟
戸61番地
- ・195 星野富司 946 北魚沼郡小出町中央
街70の2
- ・196 斉藤泰二 947-01小千谷市片貝町屋敷
4832 佐藤栄太郎様方
- ・197 深沢るみ子 959-04西蒲原郡西川町下
山
- ・198 扇谷孝一 951 新潟市上大川前通12
番町2739番地

セイタカシギ 鳥屋野潟に //

7月 4. 5. 6. 7日 確認

住 所 変 更

下記の方が住所を変更しましたのでよろしくをお願いします。

- ・川村研治 305 茨城県新治郡桜村竹園
3丁目303棟301号
- ・金内孝宏 950—21 新潟市五十嵐2の町
8050 新潟大学五十嵐寮110号
- ・小林高臣 945—14 柏崎市善根4801
- ・土屋 泉 953 西蒲原郡巻町大字巻甲
2282 井上マサ様方
- ・長谷川誠 940 長岡市川崎4丁目294
—1号
- ・湯田祐一 120 東京都足立区千住河原町
21 針証券千住営業所内
- ・佐藤一平 953 西蒲原郡巻町巻甲5467
北陸農政局西蒲原農業
水利事業所内

▶ 編集後記 ◀

大変お待たせいたしました。総会結果の御報告（別刷同封）もありますのに、私の不手際のため遅くなりましたこと、深くおわび申し上げます。早々と原稿を頂いたり、いろいろご無理、ご迷惑をおかけした方々にも、心からのおわびとお礼を申し上げます。

家の前で、ハクセキレイのディスプレイをみて、真剣さに心打たれました。鳥に、人に皆様の、ラッキーな出会いを祈ります。なお信濃川探鳥会は、総会の際のものです。（澄）

会費値上げのお知らせ

昨今の公共料金の値上げなどから、郵送料、印刷代等がかさみ、値上げせざるをえない状況となってしまいました。総会に提案し審議していただき昭56年度から1,500円となります。よろしくお願い申し上げます。

◎同封の振替用紙を御利用下さい。又既に納入いただいた方は別途送金時御利用下さい。別に領収証は発行しておりませんので郵便局の代替証を大切に保存して下さい。

事 務 局 だ よ り

青葉の中、野山へ高原へと探鳥にお出かけのことと存じます。身近かな記録を事務局宛どしどしお寄せ下さい。それらが自然保護の大切な資料となるものです。

◎ウグイス初鳴結果とツバメ類の初認記録を現在集計中です。ぜひハガキか電話で各地の状況をお知らせ下さい。

◎住所変更された方は、お早目にご連絡下さい。支部報等発送しますと必ず2～3通がもどって来ます。

◎前記の通り今年度の会費が1,500円となりました。支部運営によりしく御協力下さい。幹事一同ますます張り切って支部報の充実、探鳥会の盛り上げ等図ってゆきたいと考えております。

日本野鳥の会新潟県支部報 No. 11 (夏)

発 行 昭和56年7月10日 編 集 瀬 尾 澄 子
発行所 (財)日本野鳥の会新潟県支部
〒959—44 新潟県東蒲原郡津川町三郷乙1193番地
電 話 02549(2)5045 渡 部 通 方
振 替 新潟6002 会 費 年 額 5,500円 (本会費とも)